

第17回特別展

# 天皇の戦争責任、忘却に抗する声 女性国際戦犯法廷から20年

2020年12月12日(土)～2021年12月4日(土)

「責任者を処罰せよ」—日本軍「慰安婦」として受けた被害を名乗り出て、1997年に亡くなった韓国の姜徳景<sup>カンドッキョン</sup>さんが遺したメッセージです。この思いに応え、2000年には民衆法廷として「女性国際戦犯法廷」が東京で開かれ、日本軍性奴隷制度の責任者として天皇裕仁を含む10名の日本軍高官に有罪判決が下されました。

それから20年、日本社会は侵略戦争と植民地支配に対する責任に向き合ってきたでしょうか。天皇の責任を問うた小さな民衆の声を伝えることから、その忘却を問います。



姜徳景「私たちの前に謝罪せよ!」1995年、紙にアクリル、48.5×37cm (協力: ナヌムの家)